# 矢作川流域圏懇談会通信

## R1 川部会編 vol.3

発　行　日：令和元年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 52 回川部会 WG を開催しました！

今回の WG では、豊田市の岩本川で現地視察を行い、豊田市矢作川研究所の山本大輔研究員に「市民主体による小さな自然再生」の活動について説明をしていただきました。また、国土交通省が取り組む効率的・効果的な河川ごみの対策に関する手引きの作成に関して、意見交換を行いました。

日　　時：令和元年 10 月 15 日（火）14:00～17:00
会議場所：豊田市職員会館　第一会議室
参 加 者：26 名（事務局含む）

## ◆主な会議内容

### 1. 岩本川における市民主体の小さな自然再生について

◆市民主体の小さな自然再生に関して　［話題提供者：豊田市矢作川研究所　山本大輔研究員］
豊田市にある岩本川では5年前から豊田市の河川課と矢作川研究所、そして地域住民が協力して「市民主体による小さな自然再生」に取り組んできました。これは、行政が浚渫（河川の堆積土砂の除去）した川に地域住民が入り整備を行うことで、良い川を守り続けていく活動です。行政と地域住民の協議や計画、活動は以下のように進んできました。

①地域住民と行政が一緒になって話し合い、昔の川の状況を共有した。
②親子で川に遊びに来てもらい、浚渫場所と何もしていない川の様子を体験していただいた。
③地域住民が主体となって岩本川の未来希望図を描いた。また住民と行政の役割を確認した。
④未来希望図をベースに川づくりに挑戦した。また、地元の有志が岩本川創遊会を結成した。
（岩本川創遊会の活動は、流域圏担い手づくり事例集Ⅱ　P36に掲載）

流域圏担い手づくり事例集Ⅱ　QR コード⇒

【主な川づくり・川利用の内容】
・地元住民による草刈り　・大きな石を使った水制工（3基）設置　・落差工の下に石組みの設置
・近くの小学校が学習場として活用（川の生きもの採集、水切り・ザリガニ釣り体験、数珠玉集め、学芸会の開催など）
このように、地域住民が実際に川へ入ることにより、川への関心を高めてもらうことで活動が継続しています。

### 2. 河川ごみ対策に関する意見交換

国土交通省が取り組んでいる河川ごみ対策検討業務について、公益財団法人河川財団と株式会社日水コンより業務内容の説明をしていただき、矢作川水系における河川ごみに関する情報共有を行いました。

◆河川ごみ対策の動き
河川ごみは河川の自然環境だけでなく、河川管理施設の維持・保全にも大きな影響を与えるため、河川管理者にとって重要な課題です。また、マイクロプラスチックに代表される海洋ごみや河川ごみの大きな原因は、流域で発生した陸ごみです。このため、国土交通省では、河川管理者として実施可能な方策をまとめた「河川ごみ対策の手引き（仮称）」の策定にむけた検討をしています。

◆矢作川水系における散乱ごみの情報共有
河川ごみの中で、矢作川流域から洪水や風により運ばれた生活ごみ・ペットボトルや河川利用者が残置したバーベキューごみ等の「散乱ごみ」が多いと考えられる場所・区間の情報を地図上に付箋で貼り出し、可視化を行いました。この情報をもとに、「散乱ごみマップ」を試行的に作る方針が検討される予定です。矢作川流域圏懇談会は今後も継続的に協力していきます。

## ◆話し合いでの主な意見　（• 意見　➢回答）

### ●岩本川における市民主体の小さな自然再生について

- どのくらいの頻度で草刈りをしているのか。また草の繁茂により護岸の端から落ちた人はいるか。（山本孝）
  - ➢ 草刈りは夏場や小学校の学習前、地域の環境美化活動時に行っている。護岸からの落下は聞いていない。しかし多くの危険があるため、子どもたちには川の楽しさと危険性の両面を伝えていきたい。（山本大）
- 下流に落差工があるが、魚道などを作ってはどうか。（髙橋）
  - ➢ 整備箇所ではブラックバスやブルーギルが見られ、去年はアユも確認された。下流から登ってきている可能性があり、高さはある程度クリアできていると思う。これからやりたいことは多くある。（山本大）
- 護岸に手を入れず、植物や水生生物にとって重要な川底及び水辺の改修を主として行っている点は、他の河川の多自然川づくりと異なり、非常に興味深い。地域住民と議論して取り組んでいることも素晴らしい。（近藤）
- 地域住民の草刈りに対して、河川管理者から補助金や助成金を出しているのか。（川瀬）
  - ➢ 河川管理者からは出していないが、岩本川創遊会が豊田市からもらっている補助金は多少ある。（山本大）
- 昔は洗剤や農薬が流れていたと思うが、今の水質はきれいになっているのか。（髙橋）
  - ➢ 水質は一回検査したが、川での遊びに問題ない数値であった。（山本大）
- 流れがとても良いが、下地を作るときは澪筋を人工的に作ったりしたのか。（川瀬）
  - ➢ ある程度流路の変化は予想していたが、手は加えず自然のままにできた。（山本大）
- 魚は何種類くらいいるのか。（光岡）
  - ➢ ７種類くらい確認しており、浚渫する前から変化はない。ドジョウとシマドジョウ、ホトケドジョウの３種が一度に獲れる豊田市内でも珍しい場所である。（山本大）
- 水面は平均でどの程度下げたのか。（鷲見）　　• 落差工はもともと埋まっていたのか。（山本孝）
  - ➢ 土はもともと護岸の真ん中くらいまであったが 1mくらい下げた。落差工はほぼ埋まっていた。（山本大）
- ジュズダマを川にあえて残し、創遊会の会長さんが子どもたちに数珠玉での遊び方を教えていた。去年は流し雛を乗せる舟を子どもが自分で考えて作り、改良を重ねて流した。新たな伝説が生まれたと思う。（吉橋）
- 子どもが川に入ることで自然に環境が維持されると良い。また、瀬淵は自然にできたものか。（鷲見）
  - ➢ 自然にできた形である。狙ってやりたい部分もあるが、人が置けるような石は流されてしまう。（山本大）
  - ➢ 岩本川は河川工学においてミニチュアの教科書のような出来である。実験水路のようで素晴らしい。小さい出水で土砂も流れており、小さい川における土砂のはけ方の議論の材料となる。（鷲見）
- 岩本川をモデルとした他の河川での事例はないのか。あるのなら、お互いに連携をとっているのか。（橋本）
  - ➢ まだ広がっていないが、豊田市の広報を通じて、来年度から取り組む河川を公募している。（山本大）
  - ➢ 大阪で魚道を作るなど小さな自然再生は広がっており、岩本川は先進事例として認知されている。（近藤）
- 岩本川は比較的規模が小さい河川であり、地域の人の目に触れることが多いため、活動も行いやすい。（光岡）
  - ➢ 日本によくある規模・環境の河川であり、さらに発信を行えば、全国に広がるきっかけとなる。（内田）
- 草刈りに対する意識は文化的な地域性があると思う。矢作川研究所で整理したら面白いのではないか。（鷲見）
  - ➢ 地域性をまとめることで、地域の良い面を発信できれば、地域の方にとっても誇りになる。（山本大）

### ●河川ごみ対策に関する意見交換

- 懇談会全体で河川ごみ情報を聞いたほうが良い。川部会メンバーの野田さんや地域の巡視員さんへの聞き取りもすべき。過去に愛知県でごみの密度を調査しており、一般社団法人 JEAN に情報は渡している。（近藤）
- 出水時は中部電力管轄のダムにゴミがかなり流れてくるが、ごみの発生源は不明である。（橋本）
- 水流や風によりゴミが集まりやすい箇所は人的要因よりも環境要因が影響する。要因の仕分けが必要。（鷲見）
- 河川ごみは海に行くため、海の人は河川管理者を悪者にするが、河川管理者も被害者である。河川管理者としてできることは、ゴミを出さないよう呼びかけることである。市民と議論する場が必要だ。（吉野）
- 最終的にはポスターで注意するだけではなくて、ごみを拾うシステムを考えることにつながると良い。（髙橋）
  - ➢ 河川ごみの発生源や集まり方の分類を行うと、ごみの回収システムの構築に役立つかもしれない。（鷲見）

## 今後の予定

■川部会まとめの会
日時：令和元年 12 月 17 日（火）　14：00～16：30　場所：豊田市

**◆お問合せ◆**
**矢作川流域圏懇談会事務局**
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

**＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。**